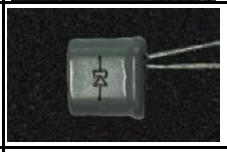
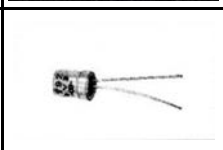
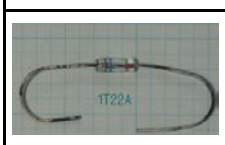
ソニーの検波用ダイオードの変遷

順	形	発売年月	記事	価格
①		（1954） 昭和29年(秋)	最初（6角形・市販用） ラジオセットには組込まず	350円
②		（1955） 昭和30年(秋)	TR-55よりTR-81まで組込み 型名を特に1T33と呼んだ	（ 組込用 ）
③		（1956） 昭和31年春	6角形より丸形へ （市販用） ラジオセットには組込まず	350円
④		（1956） 昭和31年(秋)	TR-63よりTR-62まで組込み 1T33と呼んだ（夏ボケ出はじめる）	（ 組込用 ）
⑤		（1957） 昭和32年(夏)	夏にも強い旧スタイル(30年型)を ⑥と共にピンチヒッターとす	（ 組込用 ）
⑥		（1957） 昭和32年(夏)	ピンチヒッターで好成績の トランジスタ利用の "高級ダイオード"	（ 組込用 ）
⑦		（1958） 昭和33年(春)	④.⑤の改良型. グリーンダイオード 1T23（G）	350円
⑧		（1958） 昭和33年(夏)	⑦のグリーンダイオードにも 少々夏ボケが出たので一段と改良	昭和33年7月より 160円
⑨		（1958） 昭和33年(秋)	⑧にも多少の夏ボケが出たので 外装をガラスで固めた 1T23Gを出した	160円
⑩		（1959） 昭和34年(春)	⑨の1T23G製造が難しく、 品不足となる ピンチヒッターの1T92	（ 組込用 ）
⑪		（1961） 昭和36年 (春)以降	マイクロテレビ用として1T26が 小型化されたのにつづいて 1T23. 22も小型となり、 最初は黒、38年夏からは 無塗装に色マークをつけた	昭和36年4月より 100円
				昭和39年4月より 70円

<ソニー商品の歴史>　ソニーの足音　ソニー工業専門学校編　参照
ソニー・ラジオ工学(上巻)　昭和45年3月1日発行　　参照